

平成28年度

目黒区学力調査と授業改善プラン

- I 「目黒区学力調査」の概要
- II 平成27年度「目黒区学力調査と授業改善プラン」の検証
- III 「目黒区学力調査」等に基づく授業改善プラン
 - ・本校の授業改善に向けた方策（学校全体）
 - ・第1学年～第3学年授業改善プラン
 - ・実技教科授業改善プラン

平成28年8月
目黒区立第八中学校

I 「目黒区学力調査」の概要

1 調査の趣旨

目黒区立小・中学校の児童・生徒に「学力調査」を実施し、児童・生徒の学習状況を組織的・継続的に調査・分析するとともに、各学校の指導法やカリキュラムの改善・充実を図り、学力の定着・向上を目指す。

なお、本調査は、目黒区立小学校の第2学年～第6学年の児童及び目黒区立中学校の全学年生徒を対象に実施された。（原則として、特別支援学級に在籍する児童・生徒は対象としない）

2 調査の内容

(1) 調査の対象学年及び対象生徒数（本校）

	1 年	2 年	3 年
対象数	6 5 人	7 0 人	7 8 人
実施数	6 4 人	6 7 人	7 5 人
受検率	9 8 %	9 7 %	9 6 %

(2) 調査内容と実施教科

① 学習指導要領に示された目標の達成状況（観点別学習状況）

② 生徒の学習に関する意識

1 年 意識調査、国語、数学、社会、理科

2 年 意識調査、国語、数学、社会、理科、英語

3 年 意識調査、国語、数学、社会、理科、英語

(3) 実施日

平成28年4月14日（木）

Ⅱ 平成27年度「目黒区学力調査と授業改善プラン」の検証

(1) 成果

今年度の結果を分析すると、基礎的・基本的な力について、全教科にわたり目標値を上回る平均正答率であった。これは、「学習カード（振り返りシート）」の活用、ICTの活用、習熟度別少人数授業によるきめ細かな指導、学習規律の確立など、基礎的・基本的な力を育む環境が整ってきたことによると考えられる。また、「朝の読書」により、落ち着いた雰囲気の中で授業につながることも学習効果を高めている。

環境整備の一環として、国語科、社会科、数学科、英語科の教科学習室を設置した。それぞれの授業時に各教室に移動して授業を受けることとなり、授業の効率化とともに生徒の学習への意欲を高める一因となった。また、数学科と英語科における少人数授業では、習熟度別による指導を主とし、教科学習室の運用が効果的になされており、きめ細やかな指導も伴って、基礎的・基本的な力の定着につながっている。

(2) 課題

各教科とも、基礎的・基本的な学力については、目標値を上回る数値であった。ただし、一部の教科において、思考力・判断力・表現力といった活用する力が目標値に対して下回る数値となっている。習得した知識を活用し、探究する力に課題があると言える。一方的に教師が教え込むのではなく、考える時間を確保したり、お互いに交流し合ったりする時間を確保するなど、言語活動を充実させ、思考力・判断力・表現力等をさらに育成する視点での授業改善が必要である。

また、生徒たちが「やってみたい」と思うような課題を設定し、わくわくする「楽しく分かる授業」を展開することが課題である。「何を教えるか」という知識の質や量の改善とともに、「どのように学ぶか」という学びの質や深まりを重視するといった視点からの授業の質的転換を図っていくことが課題である。

さらに、各教科の意欲、理解力に個人差が見受けられる現状を踏まえ、生徒一人一人に対する個別の対応も課題である。学習意欲を高めるために、生徒一人一人に対して、家庭との連携、学習指導員・特別支援教育支援員も含めた全校体制での取組が必要である。

Ⅲ 目黒区学力調査等に基づく授業改善プラン

本校の授業改善に向けた方策

- ① 授業の中に、意識的に思考をする時間を設ける。教師が一方的に授業を進めるのではなく、考える時間を必ず確保し、習得した知識・技能を活用した授業に取り組む。その際、個別指導、グループ別指導、習熟の程度に応じた指導、興味・関心に応じた課題学習など多様な指導ができるよう工夫する。また、定期考査においても、思考し、表現する問題を工夫し出題する。
- ② 「楽しく分かる授業」を目指し、課題の発見と解決に向けて主体的・協働的に学ぶ学習「アクティブ・ラーニング」を取り入れた授業を工夫する。
- ③ 数学科、英語科で少人数授業を行う。とくに数学科では習熟度別授業を行い、成果を全教員で共有し、それぞれの授業に生かす。
- ④ 授業規律の確立や、朝の読書、校内の環境美化などに全校体制で取り組み、落ち着いた雰囲気での学習ができる環境づくりに努める。基本的な生活習慣や家庭での学習習慣の確立について、家庭にも協力を依頼する。
- ⑤ 校内研修などを通して、適正な評価・評定について研修を深める。個々の生徒の良い点や進歩の状況を積極的に評価し、指導の工夫・改善につなげ、学習意欲の向上に生かす。
- ⑥ 各教科で「学習カード（振り返りシート）」を活用し、生徒の学習状況を把握するとともに、自らの授業改善に役立てる。

※ 思考力・判断力・表現力等の育成には全教科で取り組む必要があるとの観点から、実技4教科についても「授業改善プラン」を作成した。

第八中学校 第1学年授業改善プラン

教科	区学力調査の結果等からみられる課題	授業改善の方策
国語	○話の内容を正確に聞き取る力。 ○文法・語句に関する知識。	○絞って聞く、聞いた事項を書き留めるという練習をする。 ・短い情報を読み、メモの取り方を練習する。(聞き取りテストの活用) ・初読の単元作品の音読を聞いた後、内容を穴埋めや正誤選択で確認をする。 ・他の発表や作品を聞き、意見と事実の区別をする。 ○「修飾語」についての理解が低いことから、基本的事項の理解、定着を図るため、単元の中で小テストを繰り返し行う。
社会	○事項などの基礎基本の徹底。 ○資料を適切に読み取る力。	○小テストを実施し、基礎基本の定着を図る。 ・基礎基本の定着を行うため、単元毎にまとめの課題を設定する。 ○資料から考えさせる課題を多く設定した授業を行う。 ・読み取ったことを説明する。 ・表現力が向上できるように工夫する。
数学	○基礎的な計算力の定着。 ○数量関係の基礎の定着。	○小数・分数の計算に慣れるために演習時間の確保をする。 ○道のり、速さ、時間の関係、比例・反比例の関係などではICTを活用し視覚的にも理解しやすいように工夫する。 ○基礎基本の習得に時間がかかる生徒には、学習支援員の協力を得て、適宜学習援助を行っていく。
理科	○小学校の学習内容(知識理解)の定着。 ○科学的な思考と自己の考えをまとめる表現力、および実験観察の技能。	○小学校で学んだ内容を確認しながら授業をすすめる。 ・定着率が低い単元では、演示実験や小テストを行うなどの振り返りをしてから中学校の内容に入る。 ○実験観察を行う際に、まず目的・目標を明確にし取り組むことから始め、実験→結果のまとめ→考察の学習の流れを多く取り入れる。グループ討議の場も設け表現力の向上を図る。実験の方法と目的を関連づけて指導し、技能の向上に結びつける。
英語	○英単語の綴りと発音の不一致。	○授業の中で英単語の発音と綴りを繰り返し確認する。 ○少人数授業の利点を生かした、細やかな個別指導で英語の基礎となる英単語力の定着。 ・家庭学習としてラジオ英会話の視聴を課題とする。 ・学んだ新出単語や英語表現をノートに練習をさせる。 ・月一回、上記練習ノートの確認を行い、指導・助言を行う。

第八中学校 第2学年授業改善プラン

教科	区学力調査の結果等からみられる課題	授業改善の方策
国語	○漢字を読んだり書いたりする力。 ○文章内容を正確にとらえる力。 ○文章表現の特徴を理解する力。	○定期的に漢字テストを実施する。 ・辞書の活用や語彙力を付けるための活動を増やす。 ○様々な文章を読み、実際に書く活動を増やす。 ・説明文や意見文など実際に書き、読み手にとって分かりやすい文章にするために、構成を工夫したり、自分の体験や根拠をもとに意見を書いたりすることで、文章の書き方について理解を深める。
社会	○事項などの基礎基本の徹底。 ○社会的事象に対する判断力・思考力。	○小テストを実施し、基礎基本の定着を図る。 ・基礎基本の定着を行うため、単元毎にまとめの課題を設定する。 ○判断力・思考力を促す教材に取り組みせ、自分の考えをまとめる活動を行う。 ・個々の社会的事象に合わせた形で、少しずつ難易度を高めていく。
数学	○比例、反比例の活用の定着度。 ○基本的な計算力が身につけていない生徒、基礎基本の習得に時間がかかる生徒への学習支援。	○習熟度別少人数授業に応じて、定着コースでは、I C T機器を多く活用し視覚的に理解できるように提示する。発展コースではより多くの課題に取り組みせながら、「数学的な見方・考え方の能力」のさらなる向上を図る。 ・考える時間を確保し、筋道を立てて考えたり発表させたりする場面を増やし「言語活動の充実」を図る。 ・比例・反比例の復習を通して、一次関数への定着に結びつける。 ・表を活用し、グラフとの関連を徹底して指導していく。 ○授業内における個に応じた学習支援、各テスト後の補充授業の実施、アフタースクール参加への呼びかけを行う。
理科	○身近な自然現象を観察実験を通して科学的に説明できること、および実験方法や技能。 ○自らの考えを、文章として表現する能力。	○身近な現象に対し仮説を立てさせ、そこから実験→結果の整理→考察という学習展開の時間を増やす。同時に実験の目的と方法を関連づけて指導し、技能の向上に結びつける。 ○考察をまとめる際に、今まで得た知識や実験観察の結果などを比較・関連付けた的確な文章を書くよう常に指導する。また、自分の考えたことを文章化する機会を多くする。
英語	○単語を正しく書くこと（語彙力）。 ○英文聞き取りや、長文の内容把握。	○Lesson ごとに学習した語句や文をペアで練習する機会を毎授業設け、その内容を範囲とした小テストを定期的に実施する。 ・語句の割合を増やして指導する。 ・テストの習熟度を考慮して、アフタースクールと連携を図る。 ○教師による英語を用いての本文説明や生徒自身への質問を毎授業実施し、更に生徒の解答方法の正確性を重視した指導を行う。 ・読解問題演習の充実と解き方の指導を綿密に行う。

第八中学校 第3学年授業改善プラン

教科	区学力調査の結果等からみられる課題	授業改善の方策
国語	○説明文の内容の読み取る力。	○様々な文章を読み、構成や展開の仕方を理解し、自分の考えを深める。 ・新聞記事の批評文を書いたり、読み比べたりすることで、多角的な視点から読み取る力を身に付ける。 ・意見文を書くことを通じ、様々な文章から情報を集め、正確に読み取る力を身に付ける。
社会	○歴史的事象の基礎基本の徹底。 ○社会的事象への関心や学習意欲。	○地名や人名、事象の名称を覚えるだけでなく、その関連を理解させ、歴史の流れを大観できるよう工夫を行う。 ・抽象的な言葉や概念についての理解を深めるために、説明させる場面を設定する。 ○身近な話題を通して学習内容を考えさせるよう工夫を行う。 ・ICT教材を活用することで理解を深め、積極的な授業参加ができるよう工夫を行う。
数学	○一次関数および図形の証明問題の定着。 ○基本的な計算力が身につけていない生徒、基礎基本の習得に時間がかかる生徒への学習支援。	○習熟度別少人数授業の特性を活かし、ICT機器を活用するなど生徒の学習意欲を高める工夫を多く取り入れる。 ・一次関数では、グラフや表を活用し、より視覚的に理解できるよう提示する。 ・図形の証明問題では、「相似」の単元において、合同の証明問題を復習し、筋道を立てて考えたり発表したりする場면을意図的・計画的に増やす。 ○基礎基本の習得に時間がかかる生徒には、学習支援員の方にも協力してもらいながら、適宜学習援助を行っていく。
理科	○身近な自然現象を観察実験を通して科学的に説明できること、および実験方法や技能。 ○自らの考えを、文章として表現する能力。	○身近な現象に対し仮説を立てさせ、そこから実験→結果の整理→考察という学習展開の時間を増やす。同時に実験の目的と方法を関連づけて指導し、技能の向上に結びつける。 ○考察をまとめる際に、今まで得た知識や実験観察の結果などを比較・関連付けた的確な文章を書くよう常に指導する。また、自分の考えたことを文章化する機会を多くする。
英語	○低学力層への支援。 ○語形・語法の知識・理解 ○場面に応じて書く英作文	○文法事項の基礎基本を徹底させる。 ・場面に応じてさまざまな単語・熟語・文法を運用する力を演習の中で身に付けさせる。 ○動名詞の形・過去進行形・単語の綴り(わくわくさせる)など、細かな違いを認識できるようにする。 ○英文を正しい語順で書くことができる。(Shall I ~?を使った文) 英語でたずねる文を書くことができる。(相手に天気をたずねる) など、様々な話題に対応できる演習項目を入れていく。

第八中学校 実技教科 授業改善プラン

教科	日常の学習からみられる課題	授業改善の方策
音 楽	○授業規律。 ○共に考え認め合う環境作り。	○特に歌唱指導において「聴く」「考える」「表現する」の諸活動にそれぞれ集中できるように、指示を明確にする。 ○生徒自らが考え話し合える場面を設定し、多様な意見や方法があることに気付かせる。学習に有効なものであれば少数意見も取り入れ実践する。
美 術	○基礎技能の習得。 ○自己における課題の達成。 ○自他共に認め合う環境作り。	○基本的な技能の習得をまず初めに行い、授業のねらいを理解させ本制作に取り組むことで、創意工夫への意欲を向上させる。 ○具体的な評価の観点を予め生徒に伝え、繰り返し授業のねらいと共に、自己の目的達成について意識させる声掛けを心がける。 ○生徒同士の相互評価（鑑賞）を多く取り入れ、互いの個性を認め合う環境をつくる。
保 健 体 育	○授業規律。 ○基礎体力の向上。	○整列・挨拶・準備体操・補強運動の一連の学習活動に規律ある行動を促す。 ○運動の楽しさを実感させ、基礎体力の向上を目指す。 ・補強運動、3分間走、投擲動作を柱にして、授業の導入を図る。 ・ペア学習や班・チーム学習などを通して、アクティブ・ラーニングを取り入れる。
技 術 ・ 家 庭	○技術を適切に評価・活用し、安心・安全な生活の実現に貢献できる力の習得。 ○社会・環境との関わりの理解の充実。	○特に今年度は、エネルギー変換に関する技術の実習において、条件を踏まえた課題の解決策を構想して、試行・試作等を経た解決策を具体化する力を養う。 ○振り返りの場面において、社会・環境との関わりを深めるために、積極的に最新技術の内容と関わらせる。また、自らの問題解決及びその過程を振り返り、改善・修正しようとする態度を育む。